

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	◎	コンビニ（店舗管理）	単価の動き	・来客数は前年並みであるが、客単価は3～5%の増加になっている。
	◎	タクシー運転手	来客数の動き	・5月初めのゴールデンウィークは、観光客や帰省客による利用で忙しかった。後半はその反動で一服感がある。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年はゴールデンウィークを過ぎると閑散とするが、今年は欧米からの観光客を中心に来客数が減らない。ゴールデンウィーク商戦は日本人の財布のひもが固く今一つだったが、今月もインバウンドに助けられている。
	○	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・4～5月は非常に多くの観光客、外国人でにぎわっており、北陸へのインバウンド需要が継続している。
	○	通信会社（役員）	販売量の動き	・通信サービス、放送サービス共に、新規契約数が前年同期を上回っている。
	○	競輪場（職員）	販売量の動き	・前月から引き続き売上が増加している。今年のゴールデンウィークは、海外旅行費や国内宿泊費などの高騰によって近場で休日を過ごす人が増えているとの報道があり、売上に影響したとみている。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・これまで前年に届かなかった来客数が、ここ3か月は僅かではあるが前年を上回っている。
	○	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・イベントへの来場者数は少ないが、契約の確率が上がっている。能登の人からの問合せが多いが、オーナーからの紹介に限定されている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月は大きな店舗の撤退があったことに加え、百貨店の集客イベントの開催もなかった。その影響か、土日を含めて人通りが少なく、周辺駐車場の利用も前年と比べて、2割程度減少している。今後しばらくは好転がみられないのではと考える。
	□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・今年の5月は、前年より土曜日が1日多い曜日周りであったため、新型コロナウイルス感染症発生前の2018年と2019年、及び前年実績は超える見込みである。食品物産に関する催事は過去最高売上を更新している。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・商品の値上げが続き、依然として客の節約意識が高い。
	□	スーパー（総務担当）	単価の動き	・米不足による米価格高騰により、その他食品の買い控えがみられる。
	□	スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・食料品の価格高騰は落ち着きを見せており、大きな変化はみられない。
	□	コンビニ（店長）	単価の動き	・来客数は減少している。また、物価の上昇に伴い客単価が上昇し、売上金額は前年を少し上回る程度で推移している。しかし、今では利益率の高い商品の購入が激減しており、利益率が平均的な商品での売上構築が主になっている。店舗の営業費高騰により、売上が前年と同水準であっても利益はかなり厳しい状況である。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・今年の連休は前年と比べて遠出する人が少なく、客の来店につながった。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客の節約志向が強く、なかなか財布のひもが緩まない。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車の受注状況が悪くなっている。地方では都市部ほど賃金の上昇が大きいため、物価高による影響が出ているとみている。
	□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・メーカーの生産調整により思うように店舗に配車されず、売上に結び付かない。この状態は今後もしばらく続くと考えている。
	□	住関連専門店（役員）	来客数の動き	・買上点数や客単価などは好調時と変わらない実績で推移しているが、来客数の減少が著しく、売上に大きく影響している。

□	その他小売 [ショッピング センター] (統 括)	販売量の動き	・3か月前と比較すると、来客数は増加しているものの客単価が下がっている。客の購買意欲はあるが、物価上昇のなか、よく吟味して購入すべき商品を絞っている様子である。
□	一般レストラン (店長)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後の観光客の入込が悪い。
□	観光型旅館(経 理)	それ以外	・能登半島地震の発生以降休業状態で、再開までにまだかなりの期間を要する。
□	旅行代理店(従 業員)	お客様の様子	・客単価は上がっているが、受注件数はほぼ横ばいか、減少傾向にある。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・人の動きが悪い。想定以上に観光客の動きがない。他県への興味が勝っているようである。
□	通信会社(職 員)	お客様の様子	・客の問合せ内容に目立った変化はない。
□	通信会社(役 員)	販売量の動き	・新規契約数等に大きな変動はみられない。
□	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・団体客や個人客の来客数の動きは前年並みに推移している。北陸新幹線の延伸効果やPR効果はやや落ち着いてきているものの、安定した来客数の伸びになっている。
□	住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・現在、新規の分譲地の完成が近づいており、分譲地の販売と同時に新築の契約も進んでいる。また、1件当たりの単価も若干上昇しており、高くても良い物を選ぶ傾向がみられる。
□	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・建築資材の高騰により建築コストが高止まりしているため、客の購買意欲が高まっていない。
▲	一般小売店[精 肉] (店長)	販売量の動き	・4月からの物価高の影響もあってか、贈答用商品の単価が下落しており、販売量、売上共に振るわない状況である。
▲	一般小売店[事 務用品] (店 長)	販売量の動き	・客は本当に必要な物しか購入しない様子である。
▲	一般小売店[書 籍] (従業員)	お客様の様子	・客が今まで以上に買い控えをしている。
▲	百貨店(販売促 進担当)	お客様の様子	・米価格の高騰、備蓄米の放出などによる社会の混乱や、米国の関税政策による輸出関連産業の先行きへの不透明感から、身近な生活関連物資の供給について不安視する様子が見受けられる。
▲	百貨店(販売担 当)	お客様の様子	・気温が不安定で、前年秋頃から特に衣料品の低迷が続いている。客は目的の商品のみ購入することから複販率が低く、購買率も低迷している。客の低価格志向が続いており、通常価格品よりも優待品やお買い得品の売行きが堅調で、ポイントがつくなどのお買い得品を求める傾向が強い。ギフト商品の単価は低下傾向で、母の日は5000円以内の商品を購入する客が大半であった。
▲	家電量販店(店 長)	販売量の動き	・気温が上がらず、エアコンの早期販売などが厳しい状況である。
▲	乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・受注できない車種が多いことから、3か月前と比べて受注進捗が前年比で1割以上低い。
▲	スナック(経営 者)	来客数の動き	・長い連休の影響もあったが、来客数は前年比2割の減少となり、新規の客はなかった。駅前周辺の居酒屋辺りは若い人で満員と聞いている。時代の変化とともにスナックは寂れてきている。
▲	観光型旅館(経 営者)	来客数の動き	・ゴールデンウィークの3～5日と週末は満室になっていたが、平日の集客に苦戦している。
▲	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・売上の伸びが3月から徐々に下がり、今月は前年並みになりそうで、新型コロナウイルス感染症発生前の状態にはいまだ戻っていない。急激な物価高で、宿泊、宴会、レストランのどの部門も勢いが弱い。
▲	都市型ホテル (役員)	来客数の動き	・ゴールデンウィークは予約が分散し、連泊需要が伸びなかった。ゴールデンウィーク以降もビジネスを中心とした個人予約が伸び悩んでおり、稼働率は前年を下回っている。

	▲	住宅販売会社 (営業)	お客様の様子	・全体的に動きが緩慢になってきている印象を受ける。商談数はあるものの、客の背中を押す外的要因が少なく、購買意欲が十分に高まっていないとみている。
	×	商店街(代表者)	来客数の動き	・平日の悪天候時などは、極端に人出が少なくなっている。米価格の値上がりなど景況感の悪化をおおるような報道ばかりである。当然ながら客の財布のひもは固い。
	×	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・婦人服に対する客の価値観が変化している。また、天候不順による買い控えがみられる。
	×	その他専門店 [酒](経営者)	販売量の動き	・物価高が続き、影響が出てきている。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・過去3か月の工事受注は、順調に推移している。
	○	不動産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・同業者からは、少しずつ動きが出てきているという話を聞く。
	□	食料品製造業 (経営企画)	受注量や販売量の動き	・能登半島地震で被災して以降、減少した受注が戻り切らない状況が続いている。様々なコストの高止まりとあいまって、非常に厳しい経営環境にある。
	□	化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注額は変わらず推移している。
	□	電気機械器具製造業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・目先の受注に関しては、一部自動車部品を除きほぼ横ばいである。客からの受注予定等を見ても、明らかな発注増加の傾向はなく、先行きに不透明感があるという声を聞く。
	□	通信業(営業)	受注量や販売量の動き	・米国の関税政策による影響が不透明であることから株価の動きが鈍化しており、業種によっては設備投資等の動きが少ない。
	□	司法書士	取引先の様子	・建築資材の高騰と人手不足のなか、高価格帯の新築物件が少なからず建築されている。
	▲	繊維工業(総括)	受注量や販売量の動き	・米国政権の関税措置による影響は現時点で正確には見通せていない状況だが、様子見により発注を抑制する取引先があるという声や、取引先から値下げ要求があったという声がある。
	▲	税理士(所長)	取引先の様子	・原材料が高騰するなか、価格転嫁ができなかった企業の倒産や、支払条件の掛け払いへの変更を依頼する企業が増えているという話を聞く。
×	—	—	—	
雇用 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	*	*	*
	□	職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・関税の影響を直接受ける製造業では受注が減少したという声を聞く一方、サービス業では人手不足が続いており、全体としては変わらない。
	□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・求職者数は前年同月と比較して変わらないが、有効求人倍率が徐々に下がり続けている。人件費、原材料費、燃料費、水道光熱費の高騰などが影響している。
	□	民間職業紹介機関(経営者)	求人数の動き	・人手不足感が継続している。不人気の業界のなかでも、特に中小企業では人が集まらず、3か月前と状況は変わらない。
	▲	人材派遣会社(役員)	求人数の動き	・派遣先企業からの派遣依頼数が減少していることに加え、紹介先企業の人選が厳しくなっている。同業他社の紹介人材も増加しているため、求職者数が少し増加した可能性がある。
×	—	—	—	